

『学校力向上に関する総合実践事業』コーナー その7

今月は、「外部アドバイザーによる指導と助言」について紹介いたします。外部からの継続的な指導助言及びそれを踏まえた教育課程・指導方法等の不断の見直しを進めることをねらいとしています。

本校では、10月4日（火）、学校力向上に関する総合実践事業の道内アドバイザーの一員である函館市教育委員会学校教育部 教育指導課長 寺本 公彦 氏を招き、「今後の授業改善について～アクティブ・ラーニングについて～」の教育講演会を行いました。本校職員も含め、総勢40名の参加者による教育講演会でした。



講演内容は、①学校力向上函館市の取組・函館市立八幡小学校の取組・近隣校の取組 ②江差町立南が丘小学校の取組 ③今後の授業改善の視点～アクティブ・ラーニングについて～の3部からなり、今月の学校力向上コーナーでは、講演内容の③について紹介いたします。

はじめに、「なぜ、今、アクティブ・ラーニングが求められているのか」について、

- 将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子どもたち一人一人に確実に育む学校教育を実現
- よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に関かれた教育課程」を実現

に向けて、学校として準備することが重要です。として講演が始まりました。

次に、アクティブ・ラーニングを実現する授業改善の3つの視点が重要として示されました。

- 主体的な学び…学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結び付けていく
- 対話的な学び…多様な人との対話や先人の考え方（書物等）で考えを広げる
- 深い学び…各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする

このことを踏まえて、アクティブ・ラーニングを進める上で以下の3点について話されました。

1 頭の中がアクティブに！

- ・子どもが実際に動くといった学習も大切ですが、頭がより活性化してアクティブになることが大切であること。

2 バランスも大切！

- ・アクティブ・ラーニングと教師が教えることのバランスが大切になること。
- ・教えなければならない内容はしっかり教えること。

3 支持的風土の学級づくりも大切！

- ・教科のねらいや獲得してほしい内容に向かう学び合いや話し合いになっていること。
- ・一人一人が自分なりの考えをもち表現できる場面が作れること。
- ・互いを認め合い、協力し合う雰囲気になっていること。

寺本氏による「今後の授業改善」については、上記の内容を参加者と共有しました。

今回の「今後の授業改善について～アクティブ・ラーニングについて～」における寺本氏からのキーワードを心に留め、本校の全ての教師が、1時間1時間の授業をより大切に進め、子どもたちが学び合い、高め合うことができるような授業を目指していきます。